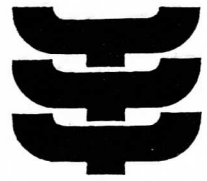


平成8年7月1日



# 米沢市文化財年報

No. 9

文化財愛護シンボルマーク

米沢市教育委員会



台ノ上遺跡

## 国指定史跡 米沢藩主上杉家墓所保存修理工事

昭和59年1月11日、国の史跡に指定された上杉家墓所は、歴代藩主の廟屋が東西に並ぶ建造物群である。上杉謙信廟を除く12廟屋が江戸時代の建立で、その後十分な修復がなされないまま今日に至った。そのため屋根、土台、床などに著しい破損がみられ、第10代治憲廟については内部にまで腐朽が及んでいる。そこで平成5年度に綿密な調査を行い、平成6年度から文化庁、山形県教育庁、(財)文化財建造物保存技術協会の協力を得て修復工事に着手している。

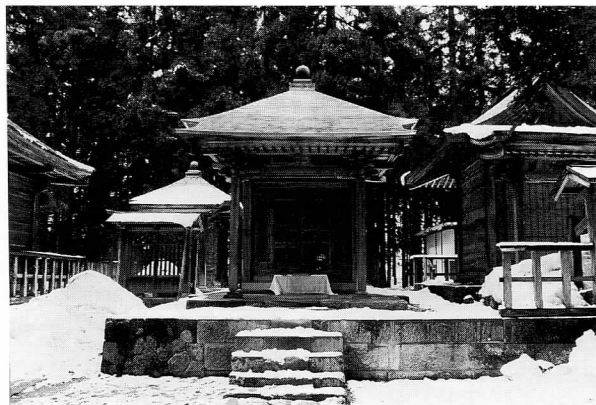
廟屋の建築様式については8代宗房までが入母屋造り、9代重定以降は宝形造りと、ほぼ同程度の規模であるが、時代が下がるにつれて少しずつ小振りになる。各廟とも、廟内に五輪塔が据えられており、廟内四周壁には五輪塔婆49本が並べられ、南正面には各廟ごとに簡単な門が造られている。今回の修復工事の対象となった第10代治憲公の廟屋は西より2棟目にあたる。

平成6年度は建物周囲の門、柵を解体後、廟屋の素屋根を建設し、五輪塔を仮安置所に据付けた。さ

らに銅板葺きの屋根及び下地となっていた柿葺きの部分的な解体を施した。これを受け平成7年度は、門柵を組み立て、基礎石、雨落墓石の布掘り及びコンクリート地業を施しての据付けを行った。屋根工事としては柿葺きに銅板を葺き重ねた。又、五輪塔をクリーニング後、梵字を塗り直し、コンクリート地業をなして廟屋内に据え直した。さらに建具の補修工事も実施した。

今回の工事において注意した点は、調査により建物の位置が墓壇の中心よりずれていることが判明したが、基礎との関係において現状の位置に据えること、できるだけ上杉家の意向に沿いながら、記録に近い寸法と材料を用いて復元製作することであった。

今後の計画として、治憲廟と同じ基壇にあり、破損状態の著しい8代宗房廟、6代吉憲廟、4代綱憲廟について順次修復を進める予定であり、2代景勝廟と12代斉定廟及び世子顕孝廟は破損程度が軽く、補修程度にとどめることができるものと思われる。



修復された治憲廟（正面）

## 伝統的建造物群活用シンポジウム

平成8年3月23日(土)、本市を会場に、平成6年度の(財)日本ナショナルトラストによる本市芳泉町や南原に残された武家屋敷の調査結果を踏まえた「伝統的建造物群活用シンポジウム」が開かれた。副題として「わが町の武家屋敷を考える」と命名されたこのシンポジウムには全国各地の武家屋敷保存に力を入れている先進地区の代表が招かれ、それぞれの地域の武家屋敷の歴史的背景、現況、保存対策、活用方法、町並み空間との調和を図った町づくり手法など

表され、シンポジウム参加者からも活発に質問が出された。また、日本民俗建築学理事の小林昌人氏の「全国の歴史的民家を歩く」、日本工業大学教授の伊藤庸一氏の「米沢の武家屋敷を考える」と題する講演にも熱心に耳を傾けていた。

会場には各地の武家屋敷の写真パネルが展示され、参加者にはパンフレットが配られ理解を深めるのに一役かっていた。

## 〈シンポジウム参加者〉

コーディネーター

日本民俗建築学会事業課長

米山淳一氏

パネラー

青森県弘前市

山田 勅氏

千葉県佐倉市

有澤 要氏

鹿児島県知覧町

厚村善人氏

米沢市文化財保護委員

小野 榮氏



シンポジウム風景

## 〈石垣町の町並みと特性〉

- ①歴史的町割が保存されている
- ②道路はほぼ直線だが、緩急の組み合わせで歩きやすい町になっている
- ③住宅の更新が進んでいるが、歴史的な屋敷構踏襲されている
- ④畑地が比較的よく活用され、新鮮な野菜などが供給されている
- ⑤林地がよく保全され町の潤いをつくり出している
- ⑥旧武家住宅の遺構がよく保全されている
- ⑦旧武家屋敷の遺構を残しながら現代的な住み方が行われている
- ⑧水路、生け垣がよく維持され、果樹、薬用、観賞など多様な樹種が多い
- ⑨蔵や石垣が比較的残されている

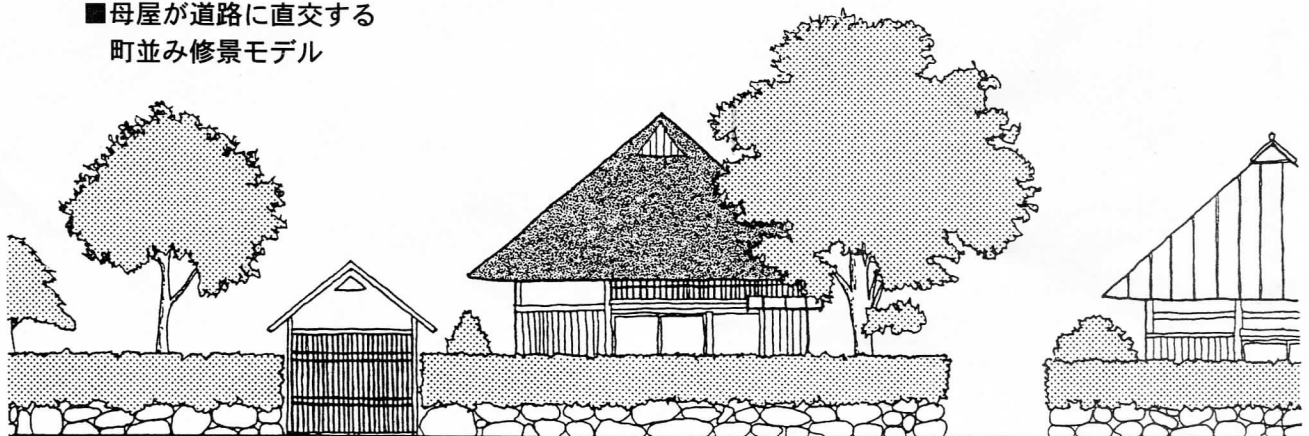
## 〈町並み景観の修景提案〉

- ①町並み保存意識高揚のための「歴史的町並み読本」の作成
- ②旧武家屋敷・タウトレイル（注1）の整備
- ③緑化推進のための「石垣町・気に入った木」の指定
- ④現代的住み方との調和を図る住まい作りのデザインガイドの作成
- ⑤石垣・生け垣・樹木・茅葺き基金の創設

### （注1）

町の良さを知るためにモデルコースを設定し、石垣とウコギ垣、多様な樹木、旧武家屋敷、町割、水路のいわれをまとめた案内板を設置する。

### ■母屋が道路に直交する町並み修景モデル



## 金ヶ崎A遺跡

- ・所在地 米沢市大字下新田三合免
- ・調査目的 資材置き場及び植栽に係る緊急調査
- ・調査期間 平成7年7月19日(水)～同年9月8日(金)
- ・調査面積 800㎡
- ・調査概要

本遺跡からは奈良時代から平安時代にかけての遺構群が確認されている。遺構は、建物跡群を中心とするもので、溝と土壌によって区画された範囲内に配置されているもので、Ⅰ期（奈良時代末～平安初期）とⅡ期（平安初期）の新旧2回の建替えが行われている。

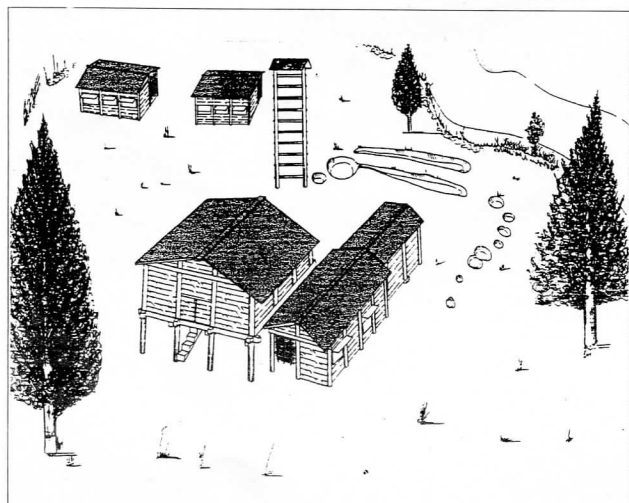
Ⅰ期の建物跡は、桁行3間×梁行3間を有する大規模な総柱（そうばしら）の建物を中心としたものであり、桁行4間×梁行2間の母屋と推測される建物を始め6棟の建物群で構成されている。

Ⅱ期は、小規模の建物群を中心とするもので、4棟の建物群が検出されている。

遺物としては、Ⅰ期及びⅡ期の土壌と溝内から出土したものが大半で、須恵器の坏・蓋・壺・甕と土師器の坏・甕などが整理箱で20箱程検出されている。この中で、注目されるものとしては、須恵器の坏の底部に墨で文字の書かれている「墨書土器」が4点確認されている。

今回の金ヶ崎A遺跡の調査内容は、明らかに一般集落とは異なるものと判断される。溝などによって区画された内部に掘立建物を配置していることや墨書土器の検出からみて、郡衙や郷衙等にかかわりを有する官人の屋敷跡の可能性が指摘される。

また、金ヶ崎A遺跡の一带には、戸塚山古墳群を中心にして奈良時代から平安時代の集落が約70箇所も存在していることから、これらの遺跡との関連性も注目される。



Ⅰ期建物群想像図  
(奈良時代末から平安初期)



金ヶ崎A遺跡

## 台ノ上遺跡

- ・所在地 米沢市吾妻町地内
- ・調査目的 個人の畑地基盤整備に伴う緊急調査
- ・調査期間 平成7年4月10日(月)～同年9月22日(金)
- ・調査面積 1,600㎡
- ・調査概要

本遺跡は、東西230m、南北740mの約17万㎡にも及ぶ縄文時代の中期中葉期を主体とする大規模な遺跡で、他に縄文前期末～中期初頭の遺跡も分布している。今回の調査は、3,000㎡を対象に実施したものであるが、予想以上の遺構と膨大な遺物が検出されたこともあって、約半分の面積を精査することとなった。

遺構は、大型の竪穴住居跡5棟を含め、46棟の竪穴住居跡、約100の土壇、それに土器を埋蔵した遺構が10箇所余り上層と下層にわたって認められている。竪穴住居跡は、いずれも複数の切り合い関係を示しており、南北17m×東西6mのHY1を最大に4～6m前後を有するものが多い。炉は、地面を掘っただけの地床炉が中心となるが、他に河原石を組合せた石囲炉も認められている。

今回の遺構で注目されるのが5棟の大型住居跡であり、住居の内部からは多量の土器とともに土偶や三脚石器・三脚石製品・三脚土製品・石棒などの祭祀に使用する遺物がまとまって検出されている。こういった事例は縄文時代の中でも珍しく、台ノ上遺跡で確認された大型住居跡は屋内の祭祀場として構築された可能性が高い。

遺物は、土偶等の祭祀用品約200点を始め、完形・復元可能な土器約400個を含めた整理箱で1,000箱と、石棒・石匙・磨製石斧・石皿など整理箱で200箱以上も検出されている。中でも、土偶は約50点以上出土し、米沢市内の遺跡では最も多く検出したことになる。さらに、磨製石斧の中には新潟県の糸魚川周辺から持ち込まれたと考えられる緑色蛇紋岩を使用した磨製石斧が20点も含まれており、当時の交流を示す貴重な資料である。台ノ上遺跡については未調査分1,400㎡を対象に平成8年度も調査を継続する予定である。



台ノ上遺跡 (空中撮影写真)

## 国宝指定 紙本金地著色洛中洛外図

本屏風は狩野永徳の筆に成るとされ、天正2年(1574)に織田信長から上杉謙信に送られたと伝えられる。昭和28年、絵画の部で重要文化財に指定され、米沢市制施行100周年(平成元年)にあたり上杉家より本市に御寄贈賜った。

京の市街地(洛中)及び郊外(洛外)を鳥瞰手法で描いたもので、全面に金をあしらい、その金地から京の景物が浮かび上がる。モチーフの名称が232、画面に直接墨書され、描かれている人物は、2,500人にも及ぶ。当時の京の人口比からして実に40人に1人が描かれていることになる。

本屏風は、美術的価値のみならず民俗学的見地も含め歴史資料としても極めて貴重なものであることから市では、複製品の製作を行うなどその保護を図りつつ文化財的価値を広く内外に紹介してきた。そうした中、文化庁文化財保護審議会の答申を経て平成7年6月15日に国宝の指定を受けるに至った。

このことを受けて平成7年10月17日、上杉家をはじめ多数の来賓を招き「洛中洛外図国宝指定祝賀会」を催した。



国宝 紙本金地著色洛中洛外図(右隻)

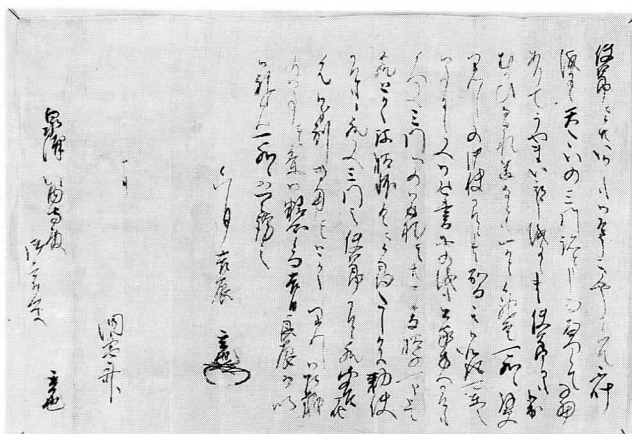
## 国指定重要文化財 上杉家文書保存修理事業

旧米沢藩主上杉家に伝来した武家文書で、南北朝・室町時代の文書を中心として、一部に江戸時代歴代藩主の自筆文書を含む。江戸時代の二度の整理によって、発信者別、あるいは内容別に紙袋に納められて整理され、四つの筆筒に収納されるが、そのほとんどの文書は受け取られた当初のままに伝えられ、中世における文書の生きた姿を伝えた唯一の文書群である。

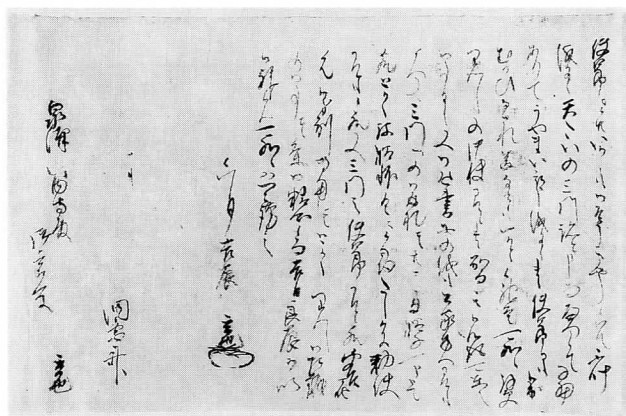
今回の保存修理は、これまでほとんど修理の行われてこなかったこれら膨大な量に及ぶ文書の保存状

態を改善し、公開活用に資するために平成7・8年度の2ヵ年で実施するものである。最終的には新設の保管庫で保管するとともにマイクロフィルム化を実施し万全な保存管理に努めることを目指す。

平成7年度は解装、裏打ち除去、繕い、裏打ちを施す。修理にあたっては、特別に指示のあるものを除き文書の形態に応じて卷子、冊子、台紙貼、鋪、捲り等旧状のままに仕立てることを基本とする。又、必要に応じて殺菌殺虫のため燻蒸を行う。



上杉家文書（修理前）



上杉家文書（修理後）

保存修理対象物件

(指定名称)	(員数)
上杉家文書	1,752通 附572点
指定年月日	昭和54年6月6日
品質・形状及び寸法	
赤筆筒(乾)入 文書	983通
赤筆筒(坤)入 文書	522通
兩掛入文書	130通
精撰古案兩掛入文書	117通

米沢市立上杉博物館 第25回 日本刀展◇日本刀の移りかわり

平成7年9月23日(土)～10月29日(日)

当館は、昭和42年（1967）に開館して本年度28年となる。この間各種展覧会を開催してきたが、特に「日本刀展」は、昭和46年（1971）に第1回展を開催して以来、毎年回を重ね今年で25回目の記念すべき展覧会となった。

当地は、江戸時代上杉氏を藩主とした城下町である。上杉謙信・景勝以来、上杉家は名刀を多数所持しており、その中から特に優品を選んだ上杉景勝の「御手撰三十五腰」については著名である。しかし、これらの名刀の数々については戦後多く散逸してしまい、三十五腰についても既存の史料のみでは特定できない状況にある。刀剣は幕府や縁戚の大名との贈答で交換されたり、近い過去では、明治14年（1881）、明治天皇が東北巡行の折に守家の太刀と備前国宗の短刀が献上された。また、大正14年

（1925）の皇太子（後の昭和天皇）の米沢行啓に際し、菊一文字が献上された。数に異同があるのは当然にしても、三十五腰及び上杉家の刀剣についてさらなる調査、研究が必要である。歴史的にも当地は刀剣に対し、関心深い土地柄である。

日本刀展においては、毎年時代別あるいは産地別にテーマを決めて開催してきたが、本年は「日本刀の移りかわり」という総括的なテーマで、平安時代以降の完成された湾刀期から江戸末期までの日本刀を公開した。時代・地域による様々な作風、魅力を堪能いただけたものと思う。

会期中、財団法人日本美術刀剣保存協会・刀剣博物館学芸員の檜山正則氏による列品解説があり、財団法人日本美術刀剣保存協会米沢支部主催の鑑賞会も行われた。

## 報告書紹介

米沢市教育委員会では、埋蔵文化財及び一般文化財を年次毎に調査し、報告書を作成しておりますので紹介します。

### 〈埋蔵文化財調査報告書〉 欠番は在庫なし

- 『桑山遺跡発掘調査報告書Ⅰ』 第6集 ¥4,000  
(水神前・柿の木・ニタ俣B各遺跡)
- 『桑山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 第8集 ¥4,950  
(八幡堂・ニタ俣A各遺跡)
- 『左沢遺跡発掘調査報告書』 第11集 ¥1,500
- 『法将寺遺跡発掘調査報告書』 第12集 ¥1,040
- 『白旗遺跡発掘調査報告書』 第13集 ¥ 500
- 『上浅川遺跡発掘調査報告書』 第15集 ¥6,000
- 『石垣町遺跡発掘調査報告書』 第16集 ¥ 800
- 『桑山遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 第17集 ¥3,700  
(大清水遺跡)
- 『大浦A・C遺跡発掘調査報告書』 第18集 非売品
- 『三の丸・生蓮寺遺跡発掘調査報告書』 第19集 ¥1,170
- 『木和田館跡第1次発掘調査報告書』 第20集 ¥ 400
- 『比丘尼平遺跡発掘調査報告書』 第21集 ¥ 950
- 『遺跡詳細分布調査報告書』 第1集 第23集 非売品
- 『遺跡詳細分布調査報告書』 第2集 第25集 非売品
- 『覚範寺第1次・第2次発掘調査報告書』 第26集 ¥1,510
- 『遺跡詳細分布調査報告書』 第3集 第27集 非売品
- 『遺跡詳細分布調査報告書』 第4集 第28集 非売品
- 『遺跡詳細分布調査報告書』 第5集 第32集 非売品
- 『大浦C遺跡発掘調査報告書』 第33集 非売品
- 『上新田A遺跡発掘調査報告書』 第34集 非売品
- 『一ノ坂遺跡発掘調査概報』 第2集 第35集 非売品
- 『大浦B遺跡発掘調査報告書』 第36集 非売品
- 『遺跡詳細分布調査報告書』 第6集 第37集 非売品
- 『一ノ坂遺跡発掘調査概報』 第3集 第38集 非売品
- 『上新田A遺跡発掘調査報告書』 第39集 非売品
- 『一ノ坂遺跡発掘調査概報』 第4集 第40集 非売品
- 『矢子山城跡調査報告書』 第1集 第41集 非売品
- 『遺跡詳細分布調査報告書』 第7集 第42集 非売品
- 『塔ノ原遺跡発掘調査報告書』 第43集 ¥1,200
- 『米沢城跡発掘調査報告書』 第44集 ¥1,300
- 『直江石堤 谷地河原堤防測量調査報告書』 第45集 ¥ 400
- 『窪平遺跡 第Ⅰ次・第Ⅱ次発掘調査報告書』 第46集 ¥1,300

- 『遺跡詳細分布調査報告書』 第8集 第47集 非売品
- 『一ノ坂遺跡発掘調査概報』 第5集 第48集 非売品
- 『矢子山城跡調査報告書』 第2集 第49集 非売品
- 『我妻館発掘調査報告書』 第50集 ¥1,400
- 『直江堤発掘調査報告書』 第2集 第51集 ¥3,000
- 『遺跡詳細分布調査報告書』 第9集 第52集 非売品
- 『一ノ坂遺跡発掘調査報告書』 第53集 非売品

### 〈一般文化財調査報告書〉 以下在庫なし

- 『米沢の民家』
- 『米沢の仏像』
- 『米沢の神社・小祠・石造物』

### 平成8年度文化財事業

#### 文化財の現状調査と基礎資料の整備

- ・「白猿」「白鳥」調査
- ・天然記念物「カモシカ」の保護

#### 保存管理の充実

- ・「上杉治憲敬師郊迎跡」(普門院・羽黒神社) 管理事業補助
- ・「上杉家墓所」管理事業補助
- ・重要文化財「絹本著色阿弥陀三尊像」保存
- ・修理事業補助
- ・行屋資料作成費補助
- ・米沢藩主上杉家墓所保存修理事業補助
- ・上杉家文書保存修理事業
- ・木和田窯跡覆屋修復工事

#### 全国史跡整備市町村協議会との連携

#### 後継者育成の促進

- ・万世梓山獅子踊保存会への補助

#### 埋蔵文化財の保護・啓発

- ・親子発掘教室の開催
- ・開発事業に伴う緊急発掘調査の実施  
「台の上遺跡」「東屋敷館跡」等市内遺跡

発行 米沢市教育委員会  
〒992 米沢市金池三丁目1-55  
(担当 文化課文化財係)  
TEL 0238-22-5111